

# 子どもの健康を チェック

ネット依存患者の特徴 ※オンラインゲームの場合

ゲームの時間がどんどん長くなる
学校から帰るとすぐゲームを始める
深夜までゲームをやり、朝起きられない
部屋に閉じこもってゲームをやり続ける
欲しい物は必ず「パソコン関係のもの」
ネットの使用時間について嘘をつく
風呂場やトイレなどで隠れてネット
ネット中に声をかけると過剰に怒る
ネット使用を禁止したら無気力になった
大量のウェブマネーの領収書をみつけた

※「心」を保つ「ネット依存」から子どもたちを守るのか(樋口進 樋口進(ウェブマネー)から引用)

# 我が子は大丈夫か ネット依存



「子供のネット依存の恐ろしさは想像以上」  
 こう指摘するのは、2011年に日本で初めてネット依存治療を開始した久里浜医療センター・樋口進院長だ。  
 Aさん(診療当時20歳)が樋口院長のもとでネット依存と診断された時、極度の低栄養状態で筋力は著しく低下し、体力測定は全て平均値以下。肺年齢は実年齢より20歳上

## 極度の低栄養状態を招き命の危険も

という気持ちがあるのに報酬に飛びついてしまうやめられず、現実から逃れるためにゲームをやるという状況だった。  
 「ネット依存のリスク要因はすべてが明らかになっていません。しかし多くの診察経験から、なりやすい人の傾向はある程度分かっています」  
 具体的には、小さい頃からゲームや勝負が好き、ゲームを始めた年齢が早い、家族がゲームに肯定的、人付き合いが苦手、友人がなかなかつかれない。発達障害の2つのタイプ「ADHD」「自閉症スペクトラム障害」や、「社交不安障害」のいずれかがある人だ。  
 「これらは本人が抱える要因ですが、加えて、衝動的性の高い脳の持ち主は自分をコントロールすることが苦手で、ネット依存に陥りやすいという研究報告があります。衝動性とは、目の前の小さな報酬に飛びついてしまう感さきつけとする心の病気で、ネット依存が脳のメカニズムとも関係があることは研究で明らか。子供のネットの使い方、親との関係が良好であれば、親子関係が良好であれば、親子で話し合い、ネット使用のルールを決めれば、ネット依存の知識がある第三者の介入が必要だ。ただし、飽きるまでやらせればそのうち飽きるといったアドバイスには要注意。やってもやっても飽きないのが、オンラインゲームだからだ。かえってより深みにハマっていく結果になりかねない」  
 ネット依存の専門治療施設は、久里浜医療センターのホームページ内にある「ネット依存治療部」(http://www.kuribama-med.jp/tia/index.html)から探すことができる。